

生まれ育った秋田で、新たな花を咲かせたい！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



柳沢 幸子
(鹿角市)

経営概況

経営面積 | 田: 5ha

畑: 1ha

作物 | 水稻、飼料用米、葉たばこ、花き

労働力 | 3名

販売先 | JA 主体



鹿角市で子育てをしながら両親と共に農業経営を行っている女性がいます。これまでの水稻と葉たばこに加え、鹿角市が推奨しているシンテッポウユリの生産をしています。将来は、地域の仲間と共に、花きのメガ団地にチャレンジし、規模を拡大したいという夢があります。

▶ きっかけ

柳沢さんは、高校卒業後首都圏で働いていましたが、自然豊かな地元の良さを再認識し、両親と共に農業を行うことを決心し、平成 25 年鹿角市に戻りました。市役所から新規就農の支援事業を紹介されたこともあり、同年新規就農しました。

両親は、水稻と葉たばこを栽培していましたが、これに加え、同市やJAが推奨しているシンテッポウユリを 20a から始め、現在は 30a に拡大しています。

平成 31 年に目標としていた認定農業者となり、今年からは、農地利用最適化推進委員に任命されました。まだ職務の内容を十分理解していませんが、これから勉強して故郷のために農地等の利用最適化を推進していきたいとのことです。



●シンテッポウユリを手取る柳沢さん

▶ 取組

シンテッポウユリの栽培には、鹿角地域の寒暖差が大きい気候が適するため、需要期のお盆のほか、出回りが少なくなる秋彼岸用の切り花としても人気が高いです。

また、地域で推奨していることもあり、花き分野で新規就農する人が多数います。



●鹿角市が推奨しているシンテッポウユリ

栽培当初は、シンテッポウユリの知識がほとんどなく、分からないことばかりでしたが、地域で先駆けて栽培を行っていた生産者に通いながら、知識や技術を一から学びました。

シンテッポウユリの栽培は、2月にJA 施設において花き生産部会員合同で播種・育苗を行っています。5月の定植以降に栽培管理を行い、9月頃から出荷となりますが、定植2年目は、お盆前に合わせて出荷しています。

▶ これから

農業は大変なことが多く、定期的な休みがある会社勤めもいいなと思うこともあります。自分で時間をコントロールでき、家事の時間や家族と過ごす時間も作れることが魅力で、子供の学校行事にも出席できることが良い点です。

また、繁忙期には会社勤めの主人も手伝ってくれるので、助かっています。



●農業は家族との時間も作れることが魅力

ガンバリが収益に反映される農業は、魅力のある職業なので、花き栽培の仲間が増えて欲しいと思います。現在はユリ栽培や子育てなどで手一杯ですが、将来的には観光いちご園や、地域の仲間と花きのメガ団地にチャレンジし、規模拡大を目指したいと話していました。

(●印写真: 柳沢さん提供)

